

**カワバタモロコ** (コイ目コイ科)

三重県：絶滅危惧 IA 類 (CR)

環境省：EN

*Hemigrammocypripis rasborella* Fowler, 1910

旧県：絶滅危惧 IB 類 (EN)

**選定理由：** 外来肉食魚の密放流によって生息域が減少し、絶滅の危機にある。

**種の概要：** 全長約 3~6 cm, 体色が金色のため、別名「キンモロコ」と呼ばれ、雌は雄よりもやや大きい。タモロコの若齢魚と似るが、本種は側線が不完全で口ひげが無く、尾柄高が低いことで区別される。メダカなどと群れをつくって表層を遊泳し付着藻類や水生動物を捕食。6月中旬から7月上旬に産卵期をむかえ、雄は金緑色の婚姻色を呈する。卵（直径約 1 mm）は水草に 1 粒ずつ産みつけられ、翌日孵化する。1年で 3 cm に達し成熟。飼育下では 10 年近く生きるが、野生個体は、雌は 3 歳まで、雄は 2 歳までが多い。



撮影：水野聡子氏

**分布：** 日本固有種。国内では、静岡県を東限とする本州の中部以西、四国の瀬戸内海側、九州北西部に分布。県内では、「カワバタモロコの第二産地」として田中茂穂博士（魚類分類学の創始者）が 1916 年に「津市山手の池」を報告し、1950 年代には相川と五十鈴川からも確認された。魚類相調査が増加した 1980 年代以降には、伊勢湾流入水系と伊賀水系の約 20 カ所のため池から報告されたものの、河川からは確認されていない。

**現況・減少要因：** 1995 年以降、少なくとも 7 カ所（ため池）で本種が絶滅し、残された生息地は約 10 カ所となった。外来肉食魚のオオクチバスやブルーギルが、遊漁目的で本種の生息地を含む県内百カ所以上のため池に密放流されたことが最大の減少要因である。本種は昼間に表層を遊泳するため、肉食魚に捕食されやすいと考えられる。また、一部の生息地では、谷田の耕作とため池管理の中断にともなって、ため池の草原化が進み、本種の生息環境が悪化している。

**保護対策：** 本種生息地の近隣にはすでに外来魚が侵入しているため、外来魚の監視体制強化と駆除が、本種の保護に不可欠である。亀山市では、NPO が中心となり、20 箇所以上のため池（本種のかつての生息地を含む）で外来肉食魚駆除を実施し、生態系再生のモデルケースとして注目されている。外来魚を駆除したため池に本種を移植するなど、生息地再生に向けた取り組みが必要と思われる。

また、本種の生息地となるため池自体が、農業者の高齢化や大規模用水の整備により、この 25 年間で 3 分の 1 未満に減少している。ため池の維持には、堤や樋門の補修や池底の堆積物の回収など、多くの手間と費用が必要であり、今後の課題である。

**特記事項：** 本種は、2004 年に三重県自然環境保全条例で「三重県希少野生動植物種」に指定され、捕獲等を行う際には知事への届け出が必要である。